

【ご案内】国内株式年投ファンドにおける証券貸借取引(レンディング)の担保金運用スキーム変更について

■証券貸借取引(レンディング)とは

特定の有価証券を必要としている証券会社等に対して、機関投資家等が保有している有価証券を貸付け、貸借料を収受する取引をいいます(以下、国内株式に関する証券貸借取引を「国内貸株」とします)。また、その目的は、有価証券の貸付けによる貸借料を収受することによる運用・管理コストの軽減とトータルリターンの上向を目指すことです。

■対象ファンド

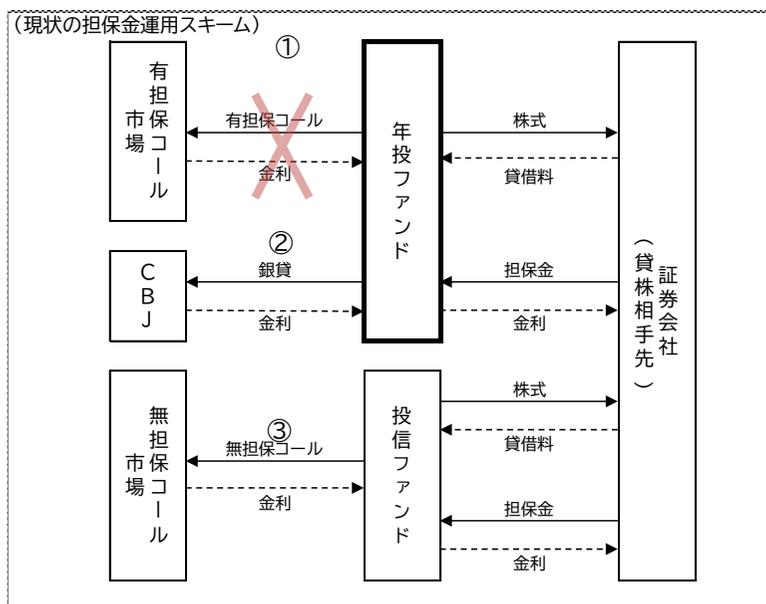
・K01、K11(E09、E11にて組入れ)

■国内貸株の運用環境

マイナス金利政策の終了を契機として、国内貸株の稼働率・貸借料は大きく低下しています。国内貸株において貸出の大宗を占めるGC銘柄(借入ニーズが相対的に低く貸借レートの低い銘柄)の返済が増加したことが主な要因であり、その結果、国内貸株の稼働率が大きく低下し、貸借料も大きく減少したものです。

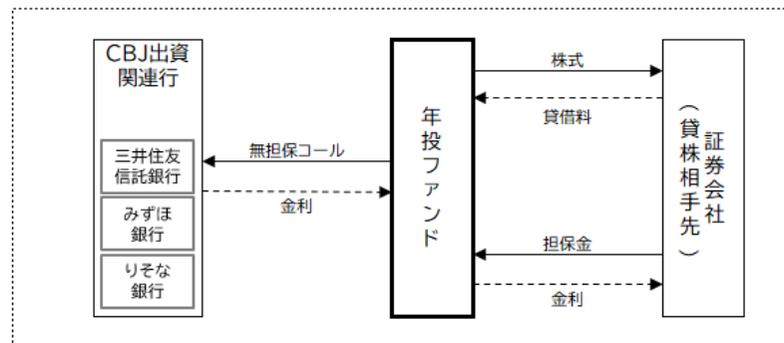
■国内貸株のパフォーマンス低下要因

国内貸株において証券会社より受領する担保金については通常有担保コール取引にて運用を実施(以下図内①)していましたが(担保金運用)が、当該有担保コール市場の規模縮小により担保金運用が困難になったため、年投ファンドの担保金は銀貸で運用(以下図内②)しています。一方、貸株市場における競合先である投信ファンドは無担保コール取引で担保金を運用(以下図内③)し、同レートに基づいて貸株相手先である証券会社に担保金金利を支払っていることから、証券会社の借入ニーズが担保金付利金利の高い投信ファンドにシフトしたためと考えられます。



■変更後の担保金運用スキーム

国内貸株のパフォーマンス低下要因を受けて、今般、国内株式年投ファンドにおける国内貸株の担保金運用を無担保コール取引にて実施するようスキームを変更いたします。国内貸株にかかる担保金を無担保コール取引で運用し、同レートに基づいて貸株相手先である証券会社に担保金金利を支払うことで、競合先である投信ファンドとの担保金付利金利に関する差を解消し、年投ファンドからの借入ニーズを高めます。



- ・国内貸株の担保金にかかる無担保コール取引は、相手先をCBJ(日本カステイ銀行)への出資関連行である、みずほ銀行、三井住友信託銀行、りそな銀行の3行に絞って実施します。
- ・取引の安定性を図るため、無担保コール取引は、原則として3行へ均等金額で放出します。ただし、三井住友信託銀行については、事務体制等の整備が終了した後に取引を行います(弊社銀行勘定との取引に関する詳細は、改めてご報告予定です)。
- ・無担保コール取引の相手先が受託者自身やCBJの関係会社となるため、取引レートが市場水準と大きく乖離しないように、CBJのフロント部署は市場レートを把握した上で取引を行い、CBJのミドル部署が事後チェックを行います。
- ・なお、付利金利がそのまま証券会社に支払われる仕組みは、有担保コール取引と変わりません(ただし、現状は担保金付利金利は銀貸レートとの差が生じています)。

■信用リスク管理

CBJ銀行勘定とCBJ出資関連行との信用リスクの差は限定的と考えられますが、CBJ出資関連行に対しては、貸株相手先と同様、クレジットモニタリングを実施し、もし信用状況が悪化した場合等には、すみやかにCBJ出資関連行への無担保コール取引を中止してCBJへの銀貸運用に戻すといった機動的な対応を行います。

■ご留意事項

- ・今後、短期金融市場の動向や放出先であるCBJ出資関連行の状況により、無担保コール取引が困難になった場合は、再度、CBJへの銀貸で担保金を運用する場合があります。
- ・今後、仮に有担保コール市場の規模が復活し、取引が可能となった場合には、市場レート、貸株取引における付利金利水準、コール取引における信用リスク等を勘案し、ファンドにとって最も有利な運用方法を検討します。